

作文跬步

村松良肅述

一

特33

30

前新書會育教本日大

自
函
架
號

三	八	二	三
册	號	架	函

082120-001-1

特33-30

作文跬步

村松 良肅 / 述

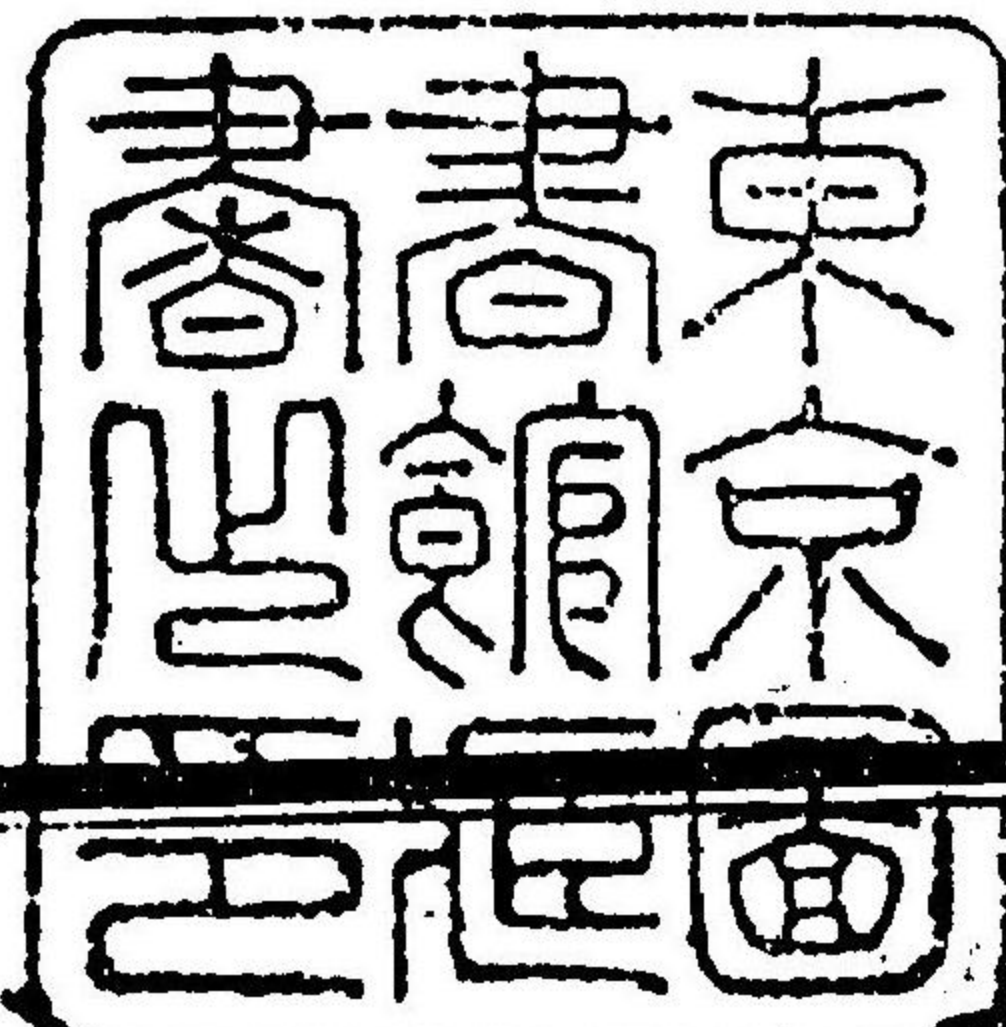
卷

M13

DAD-0228



特33
30



村松良肅遺稿

作文跬步

静留村松氏藏

三十一



竹文

題式

竹文題式

必



作文跬步卷之一

静岡 村松良肅 述

總論

人類ノ禽獸ニ異ナル所以ノ者ハ他ナシ、其智識ノ隆トクキト言語ノ整トツヘルトニ因テナリ、蓋シ人類元始ノ初メハ、其禽獸ヲ距サルト亦甚ダ遠カラス、悲懼カミヤミ懽喜ヨロコブノ感アルニ當リテハ、亦禽獸ノ如ク單ニ聲音ヲ發シテ辨オキ泣シ、或ハ呼笑セシノミナラニナリ、今言語ヲ解セトクサル啞者コトバ嬰兒アカゴニ於テ之ヲ徵シラススルニ足レリ、禽獸ハ号呼シラススレモ泣笑

スル一能ハス是其言語ヲ 人類ノ智識次第ニ開進シテ
起スヘキ機關ナケレハナリ

情意ノ感覺隨テ深切ナルニ至リ、其發音上ニ自ラ
情モト ハタラキ

清濁開合緩急抑揚ノ調子ヲ取テ、以テ其情感ノ
スミヨク アテアス ヌヤカクシオハスアケル

厚薄ヲ表セシム、是言語ノ次第ニ整ノヘル濫觴ナリ、
アツキウツキ

既ニ言語ヲ以テ彼我ノ情意ヲ通スルニ及ンテハ、事物
コトオホシ

ニ關涉スル一モ亦隨テ多端ナラザルヲ得ス、而シテ
コトオホシ

其事已ニ多端ナルニ及ンテハ、必ス之ヲ有形物ニ假
カケル

託シテ、記憶ノ用ニ供セズンハアラス、於是乎燧人氏
オボヘ

初テ繩ヲ結ンテ以テ大小ノ事ヲ記フルニ至レリ、
オボヘ

是文字ヲ造創スルノ前驅ナリ、續テ太昊伏羲氏ナ
サキハリ

ル者、始テ八卦ヲ畫シテ神明ノ徳ニ通シ、書契ヲ
キツケ

作テ結繩ノ政ニ代ヘタリト云ヘリ、或ハ云フ伏羲
キツケ

氏ノ臣倉頡ナル者、鳥獸ノ跡ノ沙ニ印セルヲ見、其
キツケ

象ヲ摸シテ創メテ文字ヲ制セリト、蓋シ文字ヲ制
キツケ

スルノ法六ツアリ一曰象形 其象ヲ取テ字ヲ制スルヲ
云○日月ノ字ノ類是ナリ 二曰

假借 一字ヲ借テ兩用スルヲ云 三曰指事 事ヲ指テ其宜ヲ得
○令長ノ字ノ類是ナリ

四曰會意 人意ニ會合スルヲ云 五曰轉注 文意相受
ナリ ○武信ノ字類是ナリ

六曰諧聲 江河ノ類ノ如キ、水ヲ以テ形トナシ
注スルヲ云○考 老ノ字類是ナリ ○エ可ヲ以テ声トナス者是ナリ

是ナリ、之ヲ六書ト云ヘリ、而シテ天下ノ義理ハ皆
 悉ク此文字ニ歸セシム、天下ノ文字ハ皆必ス此六
 書ニ歸セシム、於是乎人類七情ノ感覺、事物百般ノ
 状態、スヘテ書記スヘカラザル者ナキナリ、故ニ言語ハ
 我情意ヲ口ニ述ブル者ナリ、文字ハ其情意ヲ像ニ
 寫セル者ナリ、故ニ文字ハ一字毎ニ必ス其音ヲ
 具ヘ情ヲ言語ニ發スルユエナリ且ツ其義ヲ有セル情ヲ像形ニ寫セルユエナリ者
 ナリ、既已ニ六書ノ體ヲ以テ、數多ノ文字ヲ作レ
 ルニ及ンデハ、其文字ヲ累綴シテ事物ノ状態ヲ形

容シ、情意ノ思想ヲ表述スル、愈々詳カニ益々工
 ミニシテ、其義理ヲ詳悉セザルコトナシ、是文章ノ興レ
 ル所以ナリ、已ニ文章ヲ作レルニ及ンデハ、覆載間ノ
 事物、鬼神幽冥ノ故ヨリ人心無形ノ跡マテ、凡テ
 吾カ六識眼耳鼻舌身意之ヲ六識ト云フニ觸ル、處ノ者、皆之ヲ
 書ニ記織シテ遠隔ノ地ヘモ達スヘク將來ノ後ヘ
 モ傳フベク、乃チ言語ト並ヒ行ハレテ、車ノ兩輪ノ如
 キ者ナリ

○文章ハ凡テ吾カ耳目ニ見聞スル事物ノ狀景

ヲ叙シ、吾カ神心ニ感觸スル所ノ情態ヲ述ヘテ、
既往將來ノ事ヲモ現今ニ在ルカ若ク、幽真隱微
 ノ事ヲモ目下ニ觀ルカ若ク、其身即チ其地ニ在
 リ其事ニ觸ル、ノ感情ヲ起サシメ、我人今日口舌ヲ
 用テ其事理ヲ説キ其思想ヲ訴フルト、同一般ノ
 者ニシテ、言語ハ即チ有聲ノ文章、文章ハ即無聲ノ
 言語ト謂テ可ナリ、但シ言語ハ唯一時其情態ヲ
 言ヒ顯ハスノミノ者ナレハ、面ノアタリ其人ニ接
 シテ其言ヲ聽サレハ、得テ之ヲ知ルト能ハザレハ、文

章ハ之ヲ紙筆ニ寫シテ遠隔ノ地ヘモ達スヘク、
 將來ノ後ヘモ傳ヘテ不朽ニ垂ルヘキ者ナレハ、之
 ヲ言語ノ一時其用ヲ便スルノミノ者ニ比スレハ、
 其差ヒ霄壤モ帝ナラサルナリ、或曰ク然レハ文章
 ハ、到底言語ニ及フ可カラサル者アリ、如何トナレ
 ハ其聲音ノ清濁開合、其調節ノ高低疾徐ノ等差
 アルニヨリテ、乃チ其言ヲ聞ケハ直チニ其人ノ喜
 怒憂悲ノ影響ヲ容易ニ知ルヘク、忽チニ人心ヲ感
 動セシムルノ妙機アリ、文章ニ於テハ其人心ヲ感

動セシムルノ機、言語ノ速カナルニハ如カザル者ノ
 若シ、曰ク然リ、故ニ文章ハ務メテ其言語ノ人心
 ヲ感動セシムルノ活機ヲ學ヒ、其怒リヲ寫セハ
 人ヲシテ臂ヲ揮ヒ齒ヲ切シ、其喜ヲ摸セハ眉ヲ開
 キ意ヲ暢ヘ、其悲ヲ描セハ鼻ヲ酸シ淚ヲ含マシ
 ムルノ妙致ヲ含蓄セシメズニハ有ル可カラス、夫レ
 蘇秦ハ一匹夫ニシテ六國ノ王ヲ説キ之ヲ合從セシ
 メ、金印ノ大ナルヲ腰ニセシモ、只三寸ノ舌頭ニテ説
 キ出セシ言人如何ニモ人心ヲ感動セシメシナレハ

ナリ、是言語ノ妙機ト云フヘシ又魯仲連ハ塵ニ一
 片ノ文章ヲ燕將ニ贈リテ、燕將遂ニ自殺セシモ、
 其能ク人心ヲ感動セシムルニ非スニハ奚ンゾヨク
 茲ニ至ランヤ、是亦文章ノ妙機ニアラスヤ、蓋シ文
 章ノ妙ハ其文字ノ外ニ、無限ノ意ヲ含蓄スルニ
 在ルナリ、史記ニ燕ノ昭王、荆軻ヲ秦ニ遣ハシテ秦
 王ヲ刺サシメントシ、之ヲ易水ノ上リニ送リシ片、荆軻
 歌テ曰ク風蕭々兮易水寒、壯士一去不復還ト、看
 ヲ此二句ハ僅カ十四字ナレド、其悲憤慷慨、慄千里

敢行ノ情、千歳ノ下ヨリ猶之ヲ想像セシム、今千万ノ情話ヲ累カタヌルト雖カ凡イカ争イカ力此無限ノ餘情ヲ言盡ス、ト得ンヤ、是ニ由リテ之ヲ觀レハ、文章ノ能ク人心ヲ感動セシムルト、却テ復タ言語ヨリモ切ナル者ニアラスヤ、然リ而シテ其能ク人心ヲ感動セシムルノ妙ハ、奈何ノ處ニ在ルカト謂ヘハ、蓋シ其氣勢ノ雄俊ナルト、其姿態ノ優婉ナルト、句法字法ノ的實ナルト、抑揚頓挫ノ奇拔ナルトニ頼リテナリ、是乃チ古今操觚ノ士、尤モ其巧思ヲ費ヤス

所以ナリ、若シ文章ヲシテ氣勢姿態ノ見ルヘキナク、徒ニ文字ヲ累綴セシノミニテハ、譬タトヘハ言語ノ譬言ニ於ル如ク、言句ヲ出スト雖凡嘗テ情意ヲ闡發スルニ足ラス、焉ソ能ク人心ヲ感動セシムルヲ得ンヤ、是文章ニ於テハ最モ抑揚頓挫、起伏照應等ノ諸法ヲ要スル所以ナリ、然リト雖凡此等ノ諸法ハ、古人初ヨリ其法ヲ設ケテ文章ヲ作リシニハ非ス、蓋シ古人ノ文ハ其事物ヲ形容シ、人情ヲ闡發スルノ妙致、無限ノ餘韻アルヲ以テ、後

學ノ輩其文章ヲ感讀シ、其喜フヘク感スヘキ處ヲ名
 ケテ、或ハ句法ト稱シ、或ハ字法ト稱シ、或ハ頓挫
 ト云ヒ、或ハ照應ト云ヒ、或ハ何或ハ何ト、假リニ
 之カ符牒ヲ命シ、古人ノ文章ニ倣ハントスル、標的
 規法ト為セシ者ナリ、元ヨリ古人ノ故ヲニ其法ヲ
 設ケシニハ非サルナリ、初學ノ輩宜シク此義ヲ了
 解シテ、徒ラニ其法ニ拘束サレテ、文章ノ真味ヲ誤
 ルコ勿レ、

○言語文章ハ、凡テ我カ意想ヲ述ヘ訴フル者ナ

レハ、其声音ノ清濁開合ニヨリテ、自ラ音韻ノ調ベア
 ル者ナリ、古昔未タ文字ヲ作ラサリシ以前ノ歌謠ナ
 トハ、後世一貽リ傳ハレル者ハ、乃チ其音韻ノ調アルニ
 ヨリテ、之ヲ口ニ上セ易ク、口碑相傳ヘテ以テ存遺
 セシ者ナリ、其音韻ノ調トハ吾邦ニ於テハ、即チ五
 字七字ノ調子ナリ、神代ノ古歌ナト古事
記ニ往々記載セリ漢土ニ於テハ
 即チ四聲七音ノ韻字ヲ云フナリ、蓋シ歌謠ナドハ乃
 チ所謂ル情動于中、而形于言、言之不足、故嗟嘆詠
 歌之トアル者ニテ、其聲ヲ永ク歌ヒ、其節奏ヲシテ

自ラ韻律ニ協カフハシムル者ナリ、故ニ古昔ノ國風頌
 雅、童謠俚諺テウシナトノ皆其韻ヲ叶ウヘタルハ勿論ニシテ、
 書籍中ニ於テモ往々自ラ協韻ノ文アリ、易ノ大
 傳、禮記、書經等。又下リテ老子經、莊子、韓非、文ナトニ
 協韻ノ處往々ニ之アリ、而シテ其韻アル文章ヲ
 韻文ト謂ヒ、其韻ナキ文章ヲ散文ト謂テ、古今文
 章ヲ此二體ニ區別セリ韻文ノハ元ヨリ詩賦ニ係レル者
 ヲユエ、詩ニ於テ之ヲ詳論スヘシ
 其散文ノ者ハ經傳ヲ初トシテ、諸子百家ノ書皆是
 ナリ、而シテ文章ハ周秦ノ代ニ於テ、既已ニ其華麗

ヲ悉クシ、西漢ニ至リテ益々其盛美ヲ極メ、規律
 皆具ハレリト雖氏、其體制ニ於テハ唐宋ニ至リテ、
 昉シメテ其完マクキヲ得タリト謂フヘシ、蓋シ漢以前ノ
 文章ハ、多ハ事ヲ記スルノ文、或ハ君ニ奏スルノ文ニ
 シテ、其書ト云ヒ序ト云ヒ記ト云ヒ論ト云ヒ策ト云
 ヒ辯ト云ヒ墓誌銘ト云ヒ、各々自ラ一篇ノ體格ヲ
 殊ニセシムル者ハ、唐家八家ニ全備セリト云フヘシ、
 故ニ文章ノ法度ハ之ヲ周秦西漢ノ文ニ取ルヘシ
 ト雖氏、文章ノ體制ニ於テハ、唐宋八家ノ成規ニ

循がハザルヲ得サル者ナリ、今此篇ニ於テハ其體制ハ之ヲ唐宋八家ニ徵シ、其諸格法ノ如キハ之ヲ周秦漢ノ文章ニ徵セリ

叙事 議論

古來ヨリ汗牛充棟ノ書籍、其文章ノ奇正變化、千態万狀極リナシト雖、其綱領ヲ言ヘハ唯々叙事ト議論トノ二大綱ニ止マレリ、叙事トハ凡テ事物ノ我耳目ニ見聞スルヲ、今眼前ニ於テ明界有ノ儘ニ言述ヘ書述ヘタルヲナリ、議論トハ其耳目ニ

見聞セシ事物ヲモ、一たび之ヲ我心識ナリニ想ヒヤリテ書クヲナリ、幾多ノ經子史集アリトイヘ、此二綱ヨリ外ナル者ナシ、然リ而シテ今之ヲ一篇ノ文章上ニ於テ論スルハ、其議論文中ニ叙事アリ、叙事文中ニ議論アリ、互ニ交叉錯綜シテ初メテ文章ヲナス者ナリ、若シ一向ニ叙事ノミナレハ之ヲ口舌ニタモ演説スヘカラス、況ンヤ文章ニ於テヲヤ、而シテ斯ク議論ト言ヘハ、甚タ滋難ナル如ク聞ユレ、其少シニテモ一應我カ心識ニ涉リテ

ヨリ之ヲ言ヒ出セハ、畢竟皆之ヲ議論ト稱スル
ナリ、譬へハ火熱、水寒トノミ書スル片ハ、唯冷熱^{ツマリ}自得
ノ語ニシテ、人ニ語ルヘキノ言ニハ非サルナリ、然ルヲ
火ハ熱キ者也、水ハ寒キ者也ト、ユノ者也ノ二字
ノ議論ヲ加ヘテ、初メテ人ニ語ルノ語トナルナリ、
故ニ叙事文ハ只其事物ヲ眼前ニ言ナス者ユエ、多
クハ助字ヲ用ヒサレ、凡議論文ハ我心識ニ涉レル
者ユエ助字^{助字、フハ後ニ言フヘシ}ヲ用フルト多キ者ナリ、譬へハ
水落石出、山高月小ト書ク片ハ則チ叙事文ニシテ、

今眼前ニ見ル所ノ景色、江水ガ減落シテ、岩石ガ
現^{アタ}レ出テ、山カ高クシテ、月ガ小キナリト、有ノ儘ニ言
ナシタルナリ、然ルヲ水落則石出、山高、乃月小ト書
テ則、乃ノ字ヲ挾^アム片ハ、江水ガ今ハ十分ナレ、凡水ノ
減落スル片ハ、岩石モ出ルナラン、山ノ峯カ高キユエ
ニ、ソユデ月カ小サク見ユルナリトノ意ニナリテ、一タビ
我カ思想ニ涉レルユエニ議論文トハナレルナリ、是
ヲ以テ叙事文ト議論文トノ差別ヲ知ルヘキナリ、然
レ凡今舉クル所ノ者ハ、唯其解シ易キガ為メニ、一

句上ヲ以テ其叙事ナリ議論ナリノ意ヲ示ス者ニ
テ之ヲ以テ各文ヲ概論スヘカラス其一篇ノ文章
ニ至リテハ句法ハ叙事文アレバ全體ヲ總テ議論文ト云
フヘキ者アリ句法ハ議論アレバ全篇ニ於テ叙事文
ト云ヘキ者アルナリ故ニ曰ク叙事議論交錯ンテ初
メテ一文章トナルナリト

○叙事ハ實ニシテ議論ハ虚ナリ虚ナル者ハ固ヨリ
定數ナクシテ之ヲ論述セントスルモ我意ニ任セテ
筆端縦横變化限リナカルベケレバ其言動モスレハ放
肆ニ流レ易キノ弊アリ實ナル者ハ已ニ事跡ノ定局

アリテ我之ヲ恣マニスルヲ得サレハ其筆或ハ
滯滯極俗ニ失シ易シ議論文ハ譬ヘハ山水ヲ圖ス
ルカ如シ而シテ叙事文ハ肖像ヲ畫クガ如ク骨格耳
目ノ定リアルユエ其風神活動ノ趣キヲ肖セ得ル
ト山水ノ韻致ヲ寫スヨリモ却テ難キ者ナリ故ニ
古人モ叙事文ハ議論文ヨリモ却テ難シト云ヘル
ノ説アリ

○文章ハ十分ニ之ヲ變化セシメテ其妙ヲ盡サシムヘ

キ者アリ、又自ラ變化スヘカラサルノ模範アリテ、
 其定則ニ循ハサルヲ得サル者アリ、蓋シソノ變セシ
 ムヘキ者ハ筆ナリ、變スヘカラサル者ハ法ナリ、邵青
 門ノ魏叔子ニ與ヘテ文ヲ論スルノ言ニ、於文之
 法、有_レ不變者、有_レ至變者、文體有二、曰_レ叙事、曰_レ議論、是
 謂_レ定體、辭斷意續、筋絡相束、奔放者忌_レ肆、雕刻者忌_レ
 促、深頤者忌_レ詭、敷演者忌_レ俗、是謂_レ定格、言道者必宗
 經、言治者必宗史、道情欲婉而暢、述事欲法而明、是
 謂_レ定理、此法之不變者也、若夫縱橫馳騫、變化百出、

各視_レ工力之所及、巧拙不相師、後先不相襲、此法之
 至變者也、ト云ヘリ、蓋シ此ノ定體、定格、定理ナル者ハ、文
 章ノ骨子ニシテ、古今犯ス可カラサルノ規矩タリ、而シ
 テソノ筆ヲ舞シテ、章句ヲ鍊リ、言辭ヲ脩スルニ於テハ、
 變化多ク益々其妙ヲ見ルナリ、是レ筆ハ却テ其變化
 セシムルヲ以テ法トナスヘキコトヲ云ヘル者ナリ、

○文章上虚實ノ外ニマタ文法上ノ虚實アリ、便チ叙
 事議論ヲ問ハス、其語勢確乎トシテ文議顯明ナル者ヲ
 實筆ト云ヒ語勢切迫ナラス閑幽彷彿トシテ意味ノ

悠遠ナル者ヲ虚筆ト云フ、而シテ其實ナル者ハ事理ヲ
紀載シテ穩當實著讀ム者ヲシテ、其地ニ在リテ其事
ヲ執ルカ如キノ思ヒ有ランメニ一ヲ要ス、虚ナル者ハ一
目瞭然ナラスト雖氏、左右ヨリ意ヲ迎ヘ思ヒヲ寄セテ
之ヲ察スレハ、益々限リナキノ感情アリテ、乾肉ヲ嚼テ
漸ク其味ノ甘キヲ覺ラシムルカ如キ者ヲ妙トス、唐彪
ノ言ニ文章、非實不足、以闡發義理、非虚不足、以搖
曳神情、故虚實常宜相濟也、淺以指陳其大概、而深
以刻劃其精微、故深淺不可相離也ト云ヘリ、蓋シ左

氏ノ文ハ能ク實筆ヲ用ユルニ工ニシテ、莊子ノ文ハ
尤モ虚筆ヲ用ユルニ妙ナリト云ヘリ、虚實相ヒ得テ
始メテ文章ノ佳境ニ入ルヘキナリ、柳子厚嘉木異石錯
置、皆山水之奇者、實筆以予故、咸以愚辱焉、虚筆孟子
一簞食、一豆羹、得之、則生、弗得、則死、實筆噉尔、而與
之行、道之人弗受、蹴尔、而與之、乞人不屑也、虚筆莊
子罔兩問景曰、曩子行、今子止、曩子坐、今子起、何其無
持操與、實筆景曰、吾有待、而然者邪、吾所待、又有待
而然者邪、惡識所以然、惡識所以不然、虚筆ナリ

伊文路... 卷之... 三益山房...

氣勢機

文章ヲ作ルニ三箇ノ要訣アリ、曰氣、曰勢、曰機、是ナ
 リ、蓋シ此三ノ者ハ元ヨリ無形ノ者ニシテ、唯筆者ノ精
 神上ヨリ溢レ來リテ、自ラ筆端ニ迸發スヘキ者ナレハ、
 徒ニ之ヲ文字章句ノ間ニノミ求ム可カラサルナリ、
 文章此三ノ者ヲ欠ク片ハ一篇ノ精神萎靡トシテ
 振ハス、一讀索然トシテ人心ヲ感動スヘキノ妙致ナシ、
 氣ハ譬ヘハ人身ノ呼吸氣ノ如シ、一身ノ四肢百骸其
 運動ヲ靈ニスル所以ハ、渾身ニ此氣ノ到ラサル處ナク

貫通スルニ籍テナリ、若シ一處到ラサル所アレハ、其
 部即チ死了ス、文章ノ氣ニ於ルモ亦然リ、首ヨリ尾
 ニ至ルマテ此氣貫徹セサレハ通篇皆死シ、一句通セサ
 レハ死句トナリ、一段通セサル所アレハ死局トナル、而シ
 テ殊ニ其關鍵緊要ノ處ニ於テ若シ貫徹セサル所ア
 ル片ハ亦通篇ノ死ヲ來セリ、唐彪ノ言ニ承接處、字句、
 或虛實失宜、或反正不令、則氣即不貫矣ト云リ、故ニ
 承接轉換ノ處ニ於テハ尤モ注意セサル可カラサルナ
 リ、然レモ此氣ヤ亦唯一直徑ニ進行シテ曲折ナキ

竹文選 卷之一 十三 三益堂 承接轉換ノ處ニ於テハ尤モ注意セサル可カラサルナリ

者ノ謂ニハ非サルナリ、乃チ亦人身呼吸ノ如ク、或ハ
緩急アリ、開闔アリ、斷續アリテ、常ニ全篇中ニ周流
旋轉シ、筆頭文句ノ間ニ融洽シテ、初テ其妙ヲ見ル
ヘキナリ、例之ハ孔明出師表ノ如キハ此氣通篇ヲ貫
徹スル故ニ人ヲレテ其忠誠ノ氣ヲ歛想セシムルナリ、
東坡ノ言ニ作文之法、意盡而言止者、天下ノ至言
也、然而言止而意不盡、尤為極至トアリ、其言ハ止マ
レ凡其意ノ盡サルト云フ者ハ即チ此氣ヲ十分ニ包
有スレハナリ

○勢ハ譬ハ八人身ノ筋力アリテ四肢百骸其動作ヲ
起スカ如シ、其機局要扼ノ處、發源ノ處、承接轉折ノ處、
皆其勢力有ランヲ要ス、又首段能ク其勢ヲ得レハ通
篇皆佳シ、首句勢ヲ得レハ下段皆佳シ、每段節々多クハ
首ノ一句ニアリトシルベシ、故ニ唐彪ノ言ニ臨文時雖
下段之意、已定於心、而起句必須再三選擇也、所以
求得勢也トアリ、而リ然レ凡勢ト云モ徒ニ其文句ヲ剛
勢ニスルノ謂ニハ非ルナリ、縱令文句ハ婉麗ナル凡柔
優ナル凡其句ニ薄弱ノ處ナク、氣力十分ニ充暢シテ

下段佳少 卷之一 三聖堂發兌

枯槁セザル者ヲ勢ト云ヘリ、又首句ハ輕ク點破シ、承句ニ於テ緊重ヲ加ヘテ其勢ヲ取ルコトアリ、又雙關法ニ説キ下ス片ハ能ク其勢ヲ得ル者ナレト、承接ニ於テカヲ得サル片ハ却テ龍頭蛇尾ニ陥イルノ恐レアリ、故ニ勢ハ奔馬千里、疾風万里、コレヲ遏ムルコト能ハサルカ如キヲ以テ妙トナスナリ、備テ其氣ト勢トヲ兼子合セテ以テ文章ノ活潑ナル光焰ヲ露ハシ、雋逸ナル姿態ヲ生シ、翩躚飛舞ノ妙趣アリテ、讀者ノ心神ヲ爽快ナラシムル者ナリ、蓋シ此般ノ妙致ハ實ニ神會自

得ノ處ニシテ、口以テ言ヒ難ク筆以テ傳ヘカタク、唯人々ノ心苗中ニ存スルノミ、古人モ既ニ山勢ノ出沒、水濤ノ洶湧ナルヲ觀テ文章ノ機ノ悟入シ、或ハ劍舞ヲ看或ハ彈琴ヲ聽テ、文章ノ工夫ヲ得タリナト云ヘルモ、皆コノ氣ト勢トノ調子ヲ悟レル者ナリ、○機トハ文ヲ作ルキニ臨ミ其落筆ノ幾會ヲ云ナリ、邵芝南ノ言ニ機存於手腕之中、行於意想之表也、機一得則諸妙悉來於筆下、虛靈變化、無所不備矣トアリ、終日文章ヲ作ラント構思スレト、之ヲ成ス

一能ハス、而シテ倉卒ニ之ヲ得テ立口ニ就ル者アリ、
 耆宿ノ作者之ヲ得ル^{ニカ}一能ハスシテ、初學ノ輩却テ
 能ク之ヲ得ル者アリ文ノ機ト云フ者ハ畢竟其成文
 上ニ在ラスシテ、造文ノ臨時ニアル者ナリ、前節ニ所
 謂ル氣ナリ勢ナル者モ、此機ニ頼ラサル所ハ、遂ニ之ヲ
 施スコト能ハサルナリ、而シテ其機ヲ得ント欲セハ、宜
 ク多ク文章ヲ作ソテ熟練スルニ苦クハナシ、古人ノ
 語ニモ文章ノ其妙ニ入ルハ、之ヲ熟スルニ過キタルハ
 ナシ、筆熟スレハ氣機モ自然ニ流利シ、筆生ナレハ滯^シ滞^ル
 ンセサル者有ラサルナリト云ヘリ、東坡韓文公ノ廟記ヲ
 作ラント、累日構思ヲ費ヤセシニ、忽チ起頭ノ二句ヲ得
 テ、夫ヨリ立口ニ大篇ヲ作レリト云ヘルモ、乃チ此機ヲ
 得タルユエナリ、少年輩文章ヲ作ラントシ、何分滯滞
 シテ成ラサル所モ、退屈ノ心ヲ起シテ之ヲ放棄スル^ニ
 勿レ、フノ機一たび來ル所ハ忽チニ成ル者ナリ、故ニ唐
 彪曰人于一日之間ニ文或不佳、必^ニ不可^ニ生退怠心、更
 不可^ニ將^ニ所作^ニ毀棄^ニ、遲數月、仍^ニ以其題^ニ再作^ニ、反觸^ニ其機^ニ、
 即^チ一佳文出^ツ焉トアリ、又初學ノ輩作文ノ趣向ヲ其

一邊ヨリ構思スレ^{オモヒヲコナス}凡、何^{オモヒ}公之ヲ書キ得ル^{オモヒ}能ハサル
 氏、却テ其趣向ヲ轉シ他邊ヨリ之ヲ求メ、其左ヲ言ハ
 ントスレハ之ヲ其右ヨリシ、前ヲ言ハントスレハ後ヨリ
 シ正ヲ論ント欲セハ却テ其反ヨリシテ、忽チニ之ヲ書
 キ得ル^{オモヒ}アリ、是^{オモヒ}只其意匠ノ巧不巧ニヨル者ナリ、故
 ニ邵芝南モ、夫文有^{オモヒ}品有機品、譬^{オモヒ}則理也、機^{オモヒ}譬^{オモヒ}則巧
 也ト云ヘリ

○文章ハ一幅山水ノ圖ニ似タリ、其一邱一壑ハ章
 句ノ如ク、一石一樹ハ字法ノ如ク、而シテ石樹亭榭邱陵

ヲ取り、一箇ニシテ之ヲ見レハ、格別ノ風致モナキカ如
 クナレ^{オモヒ}凡、高山遠水幽境廣澤ヲ合セ、一幅上ニテ之ヲ
 望觀スレハ、其石樹亭榭モ、前後左右ノ勢ニ映帶シテ、
 筆墨外ノ氣韻ヲ呈ハシ、雲烟出沒ノ思想ヲ來タシ、
 前面ニ顯ハレシ水泉モ、其源脈ヲ深林幽谷ヨリ取ラ
 サルナク、高山峻峯モ其麓^{オモヒ}ヲ平原藪澤ヨリ取ラサルナク、
 其際有ルカ如ク無カ斷タル如ク、續ル如ク、俯仰顧盼互
 ニ其趣ヲ為スハ、畫圖ノ妙ナラスヤ、文章ニ於ルモ亦此
 ノ如ク、一字一句ヲ離シテ之ヲ見レハ、尋常ノ文字ナ

レ凡全篇ヨリシテ之ヲ味ヘハ章句文字ノ外ニ別ニ優
 峻雅健ノ韻致ヲ生シテヨク人心ヲ感動セシムル者
 ナリ、而シテ其文字章句外ニ別殊ノ姿態ヲ生スル者
 ハ乃チ文格句法ノ外ニ所謂ル此ノ氣勢機ノ三ツノ
 者ヲ具スルニ因テナリ、是文章ヲシテ飛舞セシムルノ
 妙手段ハ全ク此三ノ者ニ存スル者ナリト知ルヘシ、

篇法

文章ノ凡テ叙事議論ノ二大綱ヨリ成レルヲ了得
 セハ、須ラク先ツ文章ニ一篇ノ體裁有ルヲ知ラス

ンハ有ル可カラス、體裁トハ其文章ノ結架構造ヲ謂
 フニシテ、即チ所謂ル篇法是ナリ、王充ノ言ニ文字、
 有意以立、句、句有數以連、章、章有體以成、篇、篇則章
 句之大者也ト、是文字章句ヲ積ミテ一篇ノ文章ヲ
 成スニシテ即チ篇法ナリ、又先輩ノ言ルヲアリ、文
 有頭、有腹、有足、是篇法也、頭欲小腹欲滿足欲健而
 不欲大、是章法也ト、又謝疊山モ一篇ノ結構ヲ冒
 頭、原題、講題、結尾ト分チタル目アリ、即チ詩作ニ起
 承轉收ノ四法アルカ如シ、冒頭トハ其文中ニ論ス

へキ一ハ後ニシテ、先ツ其論旨ニ的實觀貼ナルヘキ議
 論ヲ拔擢シテ、其文章ノ首メニ警策ノ言語ヲ以テ
 發論スル者、即チ東坡留侯論、晁錯論ノ如キナリ、原題
 トハ其本題ノ意ニ原ツキテ論ヲ立ツル者ヲ云フ、講題
 トハ其本題ノ義、或ハ又巳カ立論ノ義ヲ講解スルヲ云
 フ、結尾トハ一篇ノ旨趣ヲ完フシテ、之ヲ收合スルノ
 法ヲ云フナリ、文章ハ大凡ソ先ツ此四法ニ依テ結構
 ス可キ者ナリ、而シテ其中間、鋪叙原題講題ナトノ法
 其承接轉折ノ互合モ忽ニス可カラスト雖、凡就中起

頭結末ノ二局處ハ、一篇ノ須要ノ在ル處ナレハ最モ
 其心ヲ用ユヘキ者ナリ、蓋シ文章ノ變化ハ極リナキ
 者ナリト雖、凡其中亦自ラ古人一定ノ規模莫キ
 ニ非サレハ、其順序布置ヲシテ紊レザラシムルヲ務
 ムヘシ、黃山谷ノ言ニ、文章必謹布置、如官府甲第廳
 堂房室各有定處不可亂也ト云ヘリ、又唐彪ノ言ニ
 モ文章全在布置格、即布置之體段也ト云ヘリ、以上
 ニ論スル所ハ唯其見易キ一端ヲ示スノミ、各文章皆
 必ス斯ノ如ク四法ヲ要スト云フニハ非サルナリ、冒頭

ナクシテ單句ニ論破フル者アリ、双關法ニテ起ス者アリ、問答或ハ講題ヲ以テ起ス者アリ、隨テ其中間鋪叙錯綜ノ法モ、亦自ラ種々ニ變化シ、結尾ノ法モ亦各種ニ點破スル者ナリ

○文章ハ凡テ此初結ノ連合ニテ其篇法體裁ヲ成シ、而シテ章法句法字法ノ連綴ニテ其姿態ヲ呈ハス者ナルユエ、譬ヘハ大廟ニ入りテ、已ニ其堂房ノ美、筵席器什ノ美ヲ見ルト雖、凡其進退趨走ノ度ハ、之ヲ各人ノ操作ニ資ラサルヲ得サルナリ、王世貞曰、首尾開闔

繁簡奇正、各極其度、是篇法也、抑揚頓挫、長短節奏、各極其致、是句法也、點綴關鍵、金石綺絲、各極其造、是字法也、篇有百尺之錦、句有千鈞之弩、字有百鍊之金、ト云ヘリ、又汪阮亭ノ言ニ、文家之有法、猶奕師之有譜、後之學者、惟其知字、而不知句、知句、而不知篇、於是有開而無闔、有呼而無應、有前後而無操縱、頓挫、不散、則乱云々トアリ、此等ノ言ニ由テ之ヲ觀ルルハ、文章ハ縱令ヒ句ヲ練リ、字ヲ鍊リ、其工ヲ盡スト、雖凡之ヲ一篇ノ體裁ニ失スル片ハ、遂ニ全璧ト云フ

ヲ得サル者ナリ、故ニ文章ハ先ツ其結構ヲ案シテ、一篇ノ體裁ヲ正フセスンハアルヘカラス而シテ、次ニ立論ノ趣意ヲ定メ、次ニ氣勢ヲ以テ之ヲ貫キ、而シテ後ニ辞句ヲ脩メテ之ヲ飾ルヘシ、是レ文ヲ作ルノ大法ニシテ、又文ヲ觀ルノ大法ナリ、陳洪謨ノ言ニ曰ク體者文之幹也、意者文之帥也、氣者文之翼也、詞者文之華也、體弗慎則文廢、意弗立則文弊、氣弗昌則文萎、辞弗脩則文蕪、四者文之病也ト云ヘリ

○文章軌範ニ放膽小心ノ二目ヲ立ルハ、凡テ小年文

ヲ學フノ道ハ、其初メ膽氣ヲ放張シ筆力ヲ豪蕩ニシテテ文章活動ノ氣象ヲ充ルニ暢滿ナラシムヘシ、然ラザレバ筆端窘束シテ、縱橫馳騁ノ勢ニ乏シ、先ツコノ放膽ノ文ニ熟シテ後ハ、稍々コレヲ收斂シ、細カニシマリテ簡重ナラシムヘシ、コレ乃チ小心ノ文ナリ、東坡ノ言ニ凡、文字少小時、須令氣象崢嶸、采色絢爛、漸熟乃造平淡、其實不是平淡乃絢爛之極也トアリ、又歐陽修ノ言ニモ文字既馳騁亦要簡重ト云ヘリ、

章法 過文 轉折 股法

文章ハ字ヲ綴リテ句トナリ、句ヲ累ネテ章トナリ、章ヲ連ネテ一篇ノ文章トナル者ニテ、章ト云ハ其一篇中ノ一段落、即チ一局部ヲ指テ云フナリ、文ニ章アルハ猶ホ人身ニ骨格アルカ如シ、其骨格或ハ長短大小アリ、或ハ方圓銳鈍アリ、或ハ豎或ハ横アリテ、皆各々其款會ニ適合セル者ナリ、而シテ其骨格ノ相ヒ接スル處ニハ必ス筋絡アリテ、其運轉屈伸ノ用ヲ為スガ如ク、章々相接スル處ニハ、又必ス承接轉換順逆等ノ諸法アリテ、其活潑ナル妙用ヲ呈ハス、然ル所以ノ者

ヲ綜テ之ヲ章法ト云ナリ、凡テ一篇ノ行文中ニ於テ、叙事ナリ議論ナリ、問答ナリ辨說ナリ、補叙ナリ敷衍ナリ、其之ヲ言ハントスルノ意ヲ言ヒ、論セントスルノ事ヲ論シテ、其一端ノ義ヲ説キ畢レル一局處ヲ一章ト云ヒ、一段落トスルナリ、本章ニ於テ言論セシ處ノ義理、猶ホ餘意アルガ、或ハ又轉シテ別義ヲ説キ出スカ、或ハ又前章ノ義ヲ分説細詳スルカノ處ニハ、又章ヲ改メテ説出シ、每章斯ク段々ニ連綴シテ一篇ノ文章ヲ成就スル者ナリ、

○章法ハ甚タ多端ニシテ概論スベカラサレ凡先ツ其
 大綱ヲ舉レハ長短大小アリ、縱橫緩急アリ、直達間
 接アリ、婉曲峻峭アリ、又齊整ノ者アリ、不齊整ノ
 者アリ、李性學ノ言ニ、一篇之中有數行齊整處、數
 行不齊整處、齊整中、不齊整中、齊整或緩或
 急、或顯或晦、間用之トアリ、コレハ句法ノ同シ調子ニ
 ナラヌ様ニスルノ法ヲ謂ルナリ、凡テ數句ノ語勢同調
 ニ疊ミ來リテハ板俗ニナリテ面白カラス、故ニ其下ノ
 句法ハ、態ト語勢ヲ換ヘテ、變化セシムルノ章法ヲ云

ナリ、韓退之尤モ此法ヲ得タリ、又揚名時曰每至文
 勢平流將弱處即矯舉振作起來、平行則救以反散
 行、則救以整清潤、則救以雄奇、平淡則救以英挺、行
 文精於用救、方是作手ナリト、此ノ正行トハ即チ齊
 整ナルヲ云ヒ、散行トハ即チ不齊整ナルヲ云ナリ、蓋シ
 章法ハ句法ト互ニ相ヒ交絡スル者ナレハ、句法ヲ措
 テ獨リ章法ヲ論ス可カラス、故ニ句法ト參考シテ其
 義ヲ會得スベシ

○每章同シ句法語勢ニテハ、其板俗ナルヲ厭ヒ、每段

同シ趣意ヲ襲説スレハ、其澁重ナルヲ嫌フ、然レ凡各
 段ノ一章中ニ在リテハ、唯其句法ノ變化ヲ鍛鍊ス
 ルニ過キササルノミナレハ、上下ノ兩章ヲ連絡スル處ノ
 關節ニ於テ語勢ヲ健ニシ文氣ヲ振運スルヲ要ス
 ヘシ、蓋シ此關節ハ上文ニテ論辨セシ所ノ義ヲ、此ニ
 ヲリテ收拾シ、下文ニテ將ニ發論セントスル所ノ義
 ヲ、此ニヨリテ開導シ、前後ノ文章ヲ接著運轉セシム
 ルノ筋絡ナレハ、之ヲ過文文章上ニト云フト云ヒ、又之ヲ過接
 文法上ニトモ云フ、前後ノ文勢之ニ因テ其カヲ呈シ、
 テ云フ

俯仰顧盼ノ姿ヲ生スル者ナリ、而シテ其法或ハ數
 語ヲ用ヒテ轉折スル者アリ、或ハ止一二語ニテ直過ス
 ル者アリ、或ハ正或ハ反、凡テ筆力ノ峻健ナランヲ
 要ス、韓退之ノ與于襄陽書ニ前段ニ於テ先進後進ノ
 云々ヲ演説シテ、愈之誦トキムル此言久矣、未嘗敢以聞於
 人ノ二句ヲ以テ過接トセリ、又同氏ノ送高閑上人序
 ニ、上文ニハ張旭が草書ニ善キヲ論シテ、今閑之於
 草書有旭之心哉、不得其心、而逐其跡、未見其能、旭
 也ノ五句ヲ以テ過接トセリ、又李太白が袁州學記

二、上文已ニ學校ノ建築ヲ詳記シテ、舎菜且有、日ノ一句ヲ以テ提過セリ、共ニ文章軌範ニ就テ、其前後ノ文意ヲ味フヘシ

○每章每段連接ノ處ニ轉折法アリ、上章已ニ一理一義ヲ説キ畢レハ、又之ヲ再説スルニ難キ者ナリ、然ル片ハ之ヲ轉レテ別ニ一番ノ新義ヲ起シ、或ハソノ反ヲ説キ、或ハソノ逆ヲ説キ、或ハ又他事ヲ傍説シテ其本義ニ觀貼セシム、以テ一層ノ議論ヲ進マシムベシ、而レテ又更ニ其義ヲ進メント欲スル者ハ、宜ク又之ヲ

再轉スヘシ、凡テ一層ヲ進メテ更ニ一論ヲ起ス者ハ皆之ヲ轉ト云ト云フナリ、折トハ上節ノ意ヲ頓ニ曲折シテ、其西ヨリスル者ハ之ヲ東ニ折リ、北ヨリスル者ハ之ヲ南ニ折リテ、廻環反復ノ趣キアラシムルヲ云フナリ、數十句中ニ四五折アル者アリ、或ハ三四句中ニレテ一句一折ノ者アリ、此轉折法ヲ知ルトキハ、離合進退、許多ノ議論ヲ生出スルニ難カラサルナリ、唐彪ノ言ニ轉掉處、以高老雄健佐之、段止勢盡處、以抑揚頓挫參之、宜使意盡而餘韻悠然ト云ヘリ

○分股立柱法ト云フ者アリ、本題ノ一理一義ヲ承
 ケテ之ヲ二様ニ論破シ、二柱ヲ立テ其意ヲ解明シ、其兩
 マタニ合ル、處ヲ股法ト云フナリ、或ハ其二柱ヨリ又股
 ヲ分チ、條々ヲ逐テ之ヲ分解シ、五六股七八股ヲ為ス
 者アリ、蓋シ股法ヲ用ヒテ事理ヲ論スレハ、文理整々ト
 シテ讀ム者ヲシテ、其條理ヲ酌ミ易カラシム、其條理ノ
 親易キが為メニ、明代制藝場屋ノ事起レルニ及シテ、此
 法盛シニ行ナハレ、其股ヲ為スヘキ所以ノ諸法ヲ設
 ケテ、喋々ト之ヲ講スルニ至レリ、然レモ文章ノ氣韻ニ

乏シク、俗體ニ近キノ嫌ヒアリ、韓退之ノ原毀ノ文ハ首
 ヨリ雙關對法ヲ以テ起シ、終篇コノ股法ヲ用ヒテ論
 下セリ、是股法ノ濫觴ナリ、故ニ頼山陽氏之ヲ評シテ、
 原毀、俗體、開後世ハ股制藝法門、是唐時已有此體
 耳ト云ヘリ

○章法ハ甚ク多端種ナレモ、其體格ノ要領ヲ概括シテ、
 左ニ數端ヲ示ス

○一句々々、每ニ次第シテ其義ヲ推シ廣ムルノ格

非韓圍梁數旬、則梁可拔、拔梁則魏可舉、舉魏則荆趙

之意絶荆趙之意絶則趙危趙危而荆狐疑東以弱齊燕中以凌三晉然則是一舉而霸王之名可成也此格ハ尤モ多クアル者ナリ

○首メ一二語ヲ舉ケ次第ニ之ヲ解シテ其義ヲ得サシムルノ格

孟子 自暴者不可與有言也自棄者不可與有為也言非禮義謂之自暴也吾身不能居仁由義謂之自棄也仁人之安宅也義人之正路也曠安宅而弗居舍正路而不由哀哉 自暴自棄ノ語ヲ解シ其ヨリ

マタ仁義ノ字ヲ解シテ人ハミナ此ニ居リ此ニ由ラサル可カラサルノ義ヲ説ルナリ

○細小ノ事ヨリ積シテ次第ニ巨大事ニ説キ及ホス格

中庸 能盡其性則能盡人之性能盡人之性則能盡物之性能盡物之性則可以贊天地之化育可以贊天地之化育則可以與天地參矣ノ類是ナリ是レ已性ヨリ人ノ性物ノ性ヨリ次第シテ天地ヲ贊シ天地ニ參スルノ事ニ擴充セシナリ

○其末流ヨリ説キ來リテ其本原ニ推シ及ホスノ格

大學 古之欲明_レ明德_ヲ於天下者、先治_ル其國、欲治_ル其國者、先齊_ル其家、欲齊_ル其家者、先脩_ル其身、欲脩_ル其身者、先正_ス其心、欲正_ス其心者、先誠_ス其意、欲誠_ス其意者、先致_ス其知、類ナリ、是其天下ヨリ而シテ國、而シテ家、而シテ身、而シテ心意、知ト次第ニ明德ヲ天下ニ明ニスヘキ、根源ニ溯リテ論セル者ナリ、或ハ又大ナル者ヨリ小ナル者ニ及スアリ、或ハ本原ヨリ末流ニ及ス者アリ、或ハ精ヨリ粗ニ入り、粗ヨリ精ニ入ル等ノ者アリ、此等ノ法格ハ文章中尤モ多キ者ナレハ、一々ニ例ヲ證スルニ

及ハス、推テ類知スヘキナリ、而シテ右ノ數節ノ如ク直ニ一章中ニ於テ其次第ヲ説キ盡クセル者アリ、或ハ又句ヲ累ネ章ヲ連ネ、左右前後ニ論鋒ヲ向ク、漸次ニ説キ來ル者アリ、能ク心ヲ用テ諸家ノ文章ヲ讀マハ、自ラ之ヲ了解スヘシ、

○對耦ヲ用フルノ格

孟子 魚我所欲也、熊掌亦我所欲也、二者不可得兼、舍魚而取熊掌者也、生我所欲也、義亦我所欲也、二者不可得兼、舍生而取義者也、生亦我所欲、有甚於生

者故不為苟得也、死亦我所惡、所惡有甚於死者、故有所不辟也、以下ナホ對耦ヲ以テ之ヲ説ケリ、文長ケレハ節録ス

○交錯ノ格、互ニ纏糾シテ其理ヲ盡サシムル者ナリ

以指、喻指、之非、指、不若、以非、指、喻指、之非、指也、以

馬、喻馬、之非、馬、不若、以非、馬、喻馬、之非、馬也、天地、一

指也、萬物、一馬也、云云、莊子曰、是魚、樂也、惠子曰

子非魚、安知魚之樂、莊子曰、子非我、安知我不知魚

之樂、云云、有始也者、有未始有始也者、有未始有

夫未始有始也者、夫ノ字ヲ加ヘテ其紛乱セサ

ルヲ見ルヘシ、不利而利之、不如利而後利之、之利

也、利而後利之、不如利而不利者、之利也、云云

○數ヲ舉ルノ格

子産有君子之道四焉、其行己也、恭、其事上也、敬、

其養民也、惠、其使民也、義、是先ツ其數ヲ言テ後ニ其

事ヲ説ルナリ、爾有乱心、無厭、國不女堪、專伐、伯

有、而罪一也、昆弟争、室、而罪二也、薰隧之盟、女矯、君

位、而罪三也、有、死罪三、何以堪之、是數ヲ后ニスル者、

三

高祖ノ項羽ガ罪ヲ責ムル者是ニ同シ、

○下ノ主句ニカヲ添ヘンガ為メニ、二三句ヲ容トシテ上

ニ置ケルノ格

莊子良庖、歲更刀、割也、族庖、月更刀、折也、今臣之刀、十

九年矣、所解數千牛矣、而刀刃若新、發於礪

○句毎ニ解シテ後ニ之ヲ總解スル者

莊子通於天地者、德也、行於萬物者、道也、上治人者、事

也、能有所藝者、技也、技兼於事、事兼於義、義兼於德、

德兼於道、道兼於天 云云

○問答ノ格アリ、其一事ノコトヲ問答スルノ文ハ、難カラ

サレ、凡、事數端ニ至リテハ其問ノ處ニ問ノ字ヲ用

ヒス、其對ノ處ニモ亦對字ヲ用ヒスシテ自他混淆シ

易シ宜シク事理貫通文意明晰ヲラシムヘシ、然ラサ

レハ動モスレハ錯雜ノ恐レアリ

左傳 王曰、馭而左右、何也、曰、召軍吏也、皆聚於中軍矣

正ノ問也 曰合謀也 伯犂ノ對ナリ 張幕矣、曰虔ト於先君也、撤幕

矣、曰將發命也、甚囂且塵上矣、曰將塞井夷竈而為

行也、皆乘矣、左右執兵而下矣、曰聽誓也、戰乎、曰未

可知也、乘而左右皆下矣、曰戰禱也、孟子曰問ナリ許

子必種粟而後食乎、曰然、陳相ノ對ナリ許子必織布而後衣

乎、曰否、許子衣褐、許子冠乎、曰冠、曰奚冠、曰冠素、曰

自織之與、曰否、以粟易之、曰許子奚為不自織、曰害

於耕、曰許子以釜甕、以鋌耕乎、曰然、自為之與、曰否、

以粟易之、云云

○前ニ其大旨ヲ舉テ後ニ之ヲ推行スル者アリ

孟子王何必曰利、亦有仁義而已矣、ノ二句ヲ首メニ舉テ

已下ハ之ヲ衍說セルノ類ナリ

句法 緩急 輕重

句ハ文字ヲ聯綴シテ成ル者ニシテ、一句ハ即チ文章ノ

一小分也、文字已ニ一句トナルニ至リテハ、凡テ事物ノ

コトヲ載セテ、畧ホ其議論ヲ爲スニ足ルヘシ、故ニ能

ク事物ノ形容ヲ摸シ、思想ノ情態ヲ寫シ、取リテ、其真

ニ逼リ餘味ヲ言外ニ含蓄セシムル者ヲ、造句ノ工手ト

云フナリ、又文章ノ句法ハ長短定リナクシテ、一字ヲ以

テ一句トナス者アリ、十數字ヲ以テ一句ヲナス者アリ、蓋

シ句法ハ譬ハ人ノ言語ノ如ク、長日ノ間暇ニ優悠ナル事

トナリ、孟子曰問ナリ許

ヲ語セシニハ其辭モ自ラ永ク又事ノ急劇ナルニ臨ミテハ其辭モ亦自ラ切迫ナラサルコトヲ得サルハ自然ノ勢ナリ、故ニ其句法語勢ヲ以テ其事ノ緩急ヲモ自ラ想像スヘキ者ナリ、而シテ文章ノ句法ハ其句作りノ詩賦ニ類似セル者ヲ嫌フ其五字七字ノ句ニ於テハ動モスレハ徒ニ麗艷ヲ旨トシテ詩句ニ似タルヲ知ラサル者アリ、句ノ詩賦ニ類スル者ハ文章ノ氣カヲシテ萎靡トシテ振ハサラシム

○文章ハ元ト達意ヲ以テ主ト為スト雖匠之ヲ裝飾シ

テ文雅ナラシメサレハ殆ント見ルニ足ラサル者ナリ、孔子ノ言ニモ言ノ之不文傳之不遠ト云ヘリ、而シテ其言ノ文ナルトハ蓋シ用字ノ雅馴ナルト造語ノ精巧ナルトニ因ルナリ、造語精巧用字雅馴ナルハ能ク言外ニ意味ヲ含蓄スル者ナリ、然リ而シテ句法八字法ト尤モ縝密ノ關係ヲナス者ナレハ、字法ヲ措テ獨リ句法ノミヲ講スヘカラス、宜シク字法ト相需テ之ヲ得ヘキ者ナリ、左ニ一二ノ例ヲ示サン

左傳 晉軍ノ敗セシコトヲ叙シテ

中軍下軍爭舟舟中之指可搦シト書セリ是敗軍ノ
 士卒互ニ舟ヲ争ヒ舩フネニ手ヲ掛テ乘リ入ントセシヲ舟中
 ノ人ハ之ヲ乗セシト拒ニ刀ヲ以テ其舩ニカ、リタル指ヲ
 切リタルノ多キヲ形容シテ、敗軍ノ多人數ナルノ意ヲ含
 蓄セリ、

左傳

楚ノ軍士ノ寒ヘタルヲ大將ノヨク拊勉セシトヲ叙シテ
 三軍之士、皆如挾纊カト書セリ、是其懇諭ノ言ヲ聽
 テ、三軍ノ士卒ミナ愉悅シテ寒ヲ忘ル、ノ意、自ラ其中
 ニ含蓄セリ

史記

翟公カ廢官ノ後ヲ形容シテ
 門外可設雀羅シト書セリ、是公カ前ニ廷尉タリシ中
 ハ、賓客常ニ其門ニ填輻セシニ、今其門前寂寥シトシテ來
 訪スル者ナキノ意、自ラ其中ニ含蓄セリ、

○事ヲ記スルニハ言ノ簡ナルヲ貴フ、簡トハ字數ノ少ナ
 キトナリ、文字多數ナレハ、其事ハ委シク論セシ如クナレ
 凡、字句ノ際猥雜ニナリテ、義理却テ不分明ニナルト
 アリ、然レ凡又濫リニ字ヲ省キ、載スヘキヲ載セス、言ヘ
 キヲ言ハスシテ、讀ム者ヲシテ、漏誤アラシヤト疑ハシム

ルハ、是疏ト云者ニテ簡ニ非サルナリ、文ノ簡ニシテ理ノ周ナルハ、ヨク其法ヲ得タル者ナリ、

苑說 夫上之化^下猶風靡^草東風則草靡而西^{西風}草

靡而東^{在風所由}而草為^之靡トアリ、是三十二言ヲ用テ其意ヲ顯ハセリ、

論語

君子之德風、小人之德草、草上^之風必偃トアリ、是僅カ十六字ヲ以テ、同事ヲ書シテ其意明ナリ、

經書

爾雅

惟風下^民惟草トアリ、是僅カ七字ニテモ亦其意明ナリ、

○句ニ長句アリ短句アリ、其長キ者八十數字ニ至リ、

短者八一ニ止マル、各々其然ラサル可カラザルニイデ、

強テ之ヲ長短スルニハ非サルナリ、又故ラニ其句法ヲ變

化長短ニシテ、文ノ氣勢ヲ取ル者アリ、左傳ニ門ノ一字

ヲ用ヒテ門セムト言フノ意ヲ以テ軍士ノ敵ノ門ヲ攻

ル^一ニ用ヒシ者アリ、
史記 田父紹^曰左左乃^陷大澤中

此兩ツノ左字、一ハ左リセヨト云辞、一ハ左リシテト云辞ニシテ、

ミナ一左字ヲ以テ一句トナセシ者ナリ

韓非 以其能^{可以}明法便國利民^{十一}字ノ句

檀 母乃使人疑夫不以情居瘠者乎哉 十四字ノ句

孰有執親之喪而沐浴佩玉者乎 十三字ノ句

韓文 若駟馬駕輕車就熟路而王良造父為之先後也

十九字ノ句

○句法ニ輕重緩急ノ法アリ、通例ノ句ハ上ノ句ヨリモ重カラシムヘキ者ナレトモ、上下ノ文勢ニヨリテ、上ノ句重クナルトキハ、下ノ句ヲ輕クシテ、姿體ヲ得セシムルコトアリ、又行文ノ氣勢議論ノ疾舒ニヨリテ、其句法ヲ或ハ緩ニシ、或ハ急ニスル一モ

アルナリ、

左傳 天之棄商久矣、君將興之、弗可救也已、韓非 凡說之

難非吾知之有以說之難也、凡說之難在知所說

之心可以吾說當之

蘇軾 夫言有大而非誇達者、信之衆人疑焉

蘇軾 文者氣之所形、然文不可以學而能、氣可以養而

致、此等ハミナ下ノ句法ヲ重クセシ者ナリ

國語 雀入于海為蛤、雉入于淮為蜃、鼃鼃魚鼈莫不能

化、唯人不能哀夫、國策 君不肯以所輕與士而責

作文法 卷之一 三十五 益堂

士以所重事君非士易得而難用也

錯 民者在上所以牧之趨利如水走下四方亡擇也

此等ハミナ下ノ句法ヲ輕クセシ者ナリ

國語 君加惠於臣是君之賜也 此語緩ニシテ輕シ

傳左 君之惠未之敢忘 此語ヤ、重シ

同 君之惠也所獲多矣 此語ヤ、急ニシテ重シ

右三様ノ別ヲ味フヘシ

傳左 狼睞於是乎君子 此語緩ニシテ輕シ

傳左 君子哉若人 此語ヤ、重シ

同 可謂君子矣 此語急ニシテ重シ

又三様ノ別ヲ知ルヘシ

韓非 何乃將有他心必不然子釋勿憂勿出於口

此レ晋ノ智過カ、韓氏魏氏ノ二心アルヲ疑テ、之ヲ

智伯ニ言ケル片、智伯ハ少シモ二氏ヲ疑フノ心ナクシ

テ、智過ニ對ヘシ片ノ辭ナリ、是レ語勢緩ニシテ、且ツ

韓魏ヲ彌縫スルノ意アルヲ見ルヘキナリ、然ルヲ單ニ

豈有他心哉トカ、吾意必不然トカノミ言フ片ハ、語

氣切迫ニシテ味ヒアルヲナキナリ、此等ヲ以テ句法ノ

緩急輕重ヲ知ルヘキナリ

○句法ヲ變化シテ文ノ氣勢ヲ取ル者アリ

非韓 隨亾於荆吳并於楚智伯滅於晉陽之下

第三ノ句ハ句法ヲ變セシ者ナリ

同 其地南至交趾北至幽都東西至日月之所出入

者

同シク第三ノ句法ヲ變セシ者ナリ

文韓 火于秦黃老于漢佛于晉宋魏隋齊梁之間

詠於詩書於春秋雜出於傳記百家之書

是句コトニ其法ヲ變セシ者ナリ

文韓 君者出令者也四字臣者行君之令而致之民者

也十字民者出粟米麻絲作器皿通貨財以事其

上者也十七字句

是短句ヨリ長句ニ入ル者ナリ

○古人ノ文ニ本ツキテ故ラニ其辭ヲ脩シテ句法ヲ變

化セシ者アリ

語論 一朝之怒忘其身以及其親非惑與トアルヲ荀子

ニハ其句法ヲ變シ

荀子

鬪者忘其身者也。忘其親者也。忘其君者也。行少頃之怒而喪終身之軀。ト書セリ

韓非

丈夫五十而好色未解也。婦人年三十而美色衰矣。以衰美之婦人。事好色之丈夫。則身見踈賤。而子疑不為後。トアルヲ。班固之ヲ脱化シテ

漢書

男子五十好色未衰。婦人四十容貌改前。以改前之容待于未衰之年。則正后自疑。而支庶有間。適ト書セリ

○二句ノ對耦ヲ取ラン為メ、一句字數ノ足ラサル處ヘ助

語ヲ加ヘテ、同文數トナセシ著アリ、是口調ノ宜ヲ取ルカ為ナリ

孟子

子濯孺子。云云。庾公之斯。云ト對セシム。是庾公斯ト云ヘル人ナレ。上ノ句四字ナルユ。下ノ句四字ヲ加ヘテ

同シ字數トセシナリ。○孟施舍似曾子。北宮黝似子

夏。是モ亦孟舍ト云ヘル人ノ名ナレ。施字ヲ加ヘテ三字

トナシテ對セシム

呂覽

得丹之姬。淫期年不聽朝。是丹姬ナルヲ下ノ句ニ對セン為メ之。字ヲ加ヘテ其字數ヲ足セルナリ

非韓 陳靈公死於夏徵舒氏荆靈王死於乾谿之上

是乾谿ニ之字ヲ加ヘテ夏徵舒氏ト對セシム

○句法ニ倒裝ト云ヘルコトアリ、倒語凡云ヘリ是ワザト句

中ノ文字ヲ倒マニ使フコトナリ、是唯ソノ句法ヲ奇ニスル

為メノミナリ

論語 迅雷風烈 楚辭 吉日兮辰良 史記 飯菽藿羹

是等一ハ正ニテ一ハ倒ナル者ナリ

說苑 吾欲使爵腐於酒肉腐於俎 是酒爵ノ字ヲ倒

セルナリ

管子 子邪言伐莒者 是子邪ノ二字ハ下ニアルヘキヲ上ニ

置ケルナリ 禮記 誰歟哭者 是誰歟ノ二字ヲ上ヘアケ

タルナリ、蓋シ此二箇條ハ文ノ緩急ニ係リテ然カナセシ

者ナラン乎 李華 降矣哉終身夷狄戰矣哉骨暴沙礫 是骨暴

ノ字ヲ倒セルナリ

○挿法ト云フコトアリ、句中ニ他ノ句ヲ挿ミ入レテ、波瀾

裝飾ヲナス者ナリ

非韓 今釋車輿之利捐六馬之足與王良之御而下走

逐獸則雖樓季之足無時及獸焉 是六馬王良

樓季ノ三句ナクトモ文義通スヘキヲ此三句ヲ其中

間ニ挿ニテ文章ノ裝飾トナシ波瀾ヲ起セルナリ周秦

ノ文章ニハ此法殊ニ多トス韓退之モ往々之ヲ用ユル

アリ、

○鍊句ノ法アリ同シヲ記シテモ其造句ノ工拙ニヨリテ

其差ヲ異ニスル者ナリ陳騏ノ言ニ鼓瑟不難難於調絃作

文不難難於鍊句ト檀弓ノ文ハ古来ヨリソソク句ヲ煉ル

ノ工ナルヲ稱セリ今之ヲ家語ニ參考シテ乃チ其妙ナルヲ

觀ルヘシト云ヘリ

檀弓 遇負杖入保者息 家語ニハ之ヲ遇人入保負杖者

息ト書セリ 檀弓 南宮縚之妻之姑之喪 家語ニハ南

宮縚之妻孔子之兄女喪其姑トアリ 檀弓 夫子為弗

聞也者而過之 家語ニハ夫子為之隱佯不聞以

過之トアリ 同 遂命覆醢 家語ニハ遂令左右皆覆醢

トアリ 同 死不如速朽之愈也 家語ニハ死不如朽

之速愈トアリ 同 予惡夫涕之無從也 家語ニハ吾

惡夫涕而無以將之トアリ是皆檀弓ノ文ノ優美ナ

ルニハ若カサルナリ

○句ニ及正法アリ、之ヲ正ク言フハ、文意率直ニシテ面白カラサルモ、之ヲ及言スレハ文義婉曲ニシテ、一層ノ姿態ヲ生スル者アリ、

論語 管氏而知禮、孰不知禮、是正言スレハ唯管仲不知禮ト云マテノナリ、然ルヲ斯ク及語ニスレハ乃チ婉曲ナルヲ覺フ

同 魯無君子、斯焉取斯、是レ子賤カ其友ニヨリテ能ク己カ徳ヲナセシヲ云フ、若シ之ヲ正言シテ魯多君子、

故取以成其徳ト言フハ、更ニ餘韻アルヲナキナリ

作文跬步卷之一 終

